

学校名	佐賀市立北川副小学校	C：やや不十分である D：不十分である
1 前年度 評価結果の概要	・児童一人一人の良さを表彰する活動、担任と児童一人一人が話し合う「あのねタイム」、下校時刻を早めて放課後の時間を確保する等の取組を行うことで、教員が授業や休み自時間に子どもに関わる時間が確保された。そのことで、児童の学習意欲や友人との関係が良好になっていると思われる。 ・次年度は、教員一人一人の授業力等を向上させる取り組みをさらに充実させることで、児童の自主的な学習態度を高めていきたい。	
2 学校教育目標	えがお かがやく 子ども を育てるチーム北川副 ～自分から進んで！ トライ&エラー&チア！～	

3 本年度の重点目標	◎自分から進んで ◎トライ＆エラー＆チア
	◆人権・同和教育の充実 ◆思いやりや感謝の気持ちを表し、伝える力の育成 ◆あいさつの励行 ◆「主体的・対話的で深い学び」の実践・授業改善 ◆基礎学力の定着 ◆読書活動の充実 ◆児童がアイディアや工夫を発揮できる場の工夫 ◆目標や達成感を意識し、自己の成長を振り返る場の工夫

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○児童自ら進んで学習活動に取り組む授業の実践	○「授業を通して、「自分から進んで学習ができた」と感じる」と回答する児童80％以上	B	・児童の意欲を高めるような授業づくりをする。 ・振り返りのポイントを示し、課題をもてるようにする。	A	・児童の意欲を高めるような授業づくりを行った。その結果、12月に実施したアンケートで「自分から進んで学習ができています」と回答する児童が89％であった。	B	まだ、11％の児童が進んで学習をうまうできていない。そういった児童への指導を考えていくべきである。	学力向上コーディネーター 学び部		
	○全職員による教科等指導力の向上に係る研修会の実施	○「授業を通して、『できた』『わかった』と感じる」と回答する児童80％以上 ○校内研修を通して自身の長所や課題を自覚し、改善に生かすことができる教師90％以上	B	・授業のUD(視覚化・焦点化・共有化)を促進し、わかる授業づくりをする。	A	・アンケート調査より90％以上の職員が研修等を生かした授業改善に取り組み、90％以上の児童が授業を通して、「できた」「分かった」と感じている。	B	・学力向上については、評価項目が2つあり、1つはアンケートによる評価、もう一つは何らかの指標が必要ではないか。	研究主任 学び部		
●心の教育	●「児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達に、ほかほか言葉をよく使っている」と回答する児童90％以上 ○「自分のよさがわかる」と回答する児童80％以上。	B	・特別の教科道徳・特別支援教育に関する校内研修等の実施。 ・友達のよさががんばりを「ほかほかカード」に記入し、校内に掲示をしたり、放送したりして紹介する。	A	・人権教室や「ほかほかカード」の取組の促進などを通して、肯定的な回答の割合が増えた。「友達に、ほかほか言葉をよく使っている」と回答する児童が90％、「自分のよさがわかる」と回答する児童が82％となり、達成ができた。	B	・「ほかほかカード」の取組は、他人への思いやりや心の醸成と自身の良さの気づきということから、今後もしっかりと取り組みを続けてもらいたい。	心豊か部		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「友達と楽しく学校生活を送っている」と回答する児童95％以上	B	・いじめの早期発見のために、毎月、児童へのいじめアンケートを行う。 ・いじめが見つかった場合は、担任一人に任せず、管理職も含むチームで対応する。 ・相手が嫌がることをしない、相手のことを思いやるなどといった内容の指導を徹底して行う。また、適宜放送等で全体への指導を行う。	B	・肯定的な回答の割合が多かった。今後は「友達と楽しく」という部分に焦点を当てた取組を行う。 ・相手のことを知るために友達との共通点を知ることができるような「友達クイズ」や「友だちビンゴ」などのグループエンカウンターを仕組み、また、活動後のシェアリングを大切に、友達のことを知ることや共に活動することの良さに触れさせる。	B	・「思いやりのある言葉遣いをしている児童が増えているが、中には人を傷つける言葉を平気と言う児童もいるので、指導の継続が必要である。	心豊か部		
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85％以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80％以上 ○「目標が達成できるように工夫して取り組んでいる」と回答した児童80％以上	B	・先生と児童が一对一で話し合う「あのねタイム」を実施する。 ・学校応援団の方をゲストティーチャーに招いた活動を展開し、地域の人々のくらしや伝統、文化、職業等についての理解を深める活動を行う。 ・行事や学期ごとの目標設定や振り返りの充実(キャリアパスポートの活用)を図る。	A	・数値目標を達成できていることから現在の取り組みは継続して行っている。 ・言葉のリフレーミングを行うことで、前向きな観点を教師と児童がもつようにする。 ・キャリアパスポートに入れる内容を決めておくことで計画的に活用をする。また、学期途中に見返す時間を設けることで自己の振り返りを行わせる。	A	・肯定的な回答の割合が88％で数値目標を達成でき、「あのねタイム」等で、今後も児童と関わる時間を設定する。 ・肯定的な回答の割合が中間評価よりも増え、84％であった。ゲストティーチャーや地域の方との関わり、キャリア教育の実施をこれからも行う。 ・肯定的な回答の割合が84％で数値目標を達成できた。学期ごとの目標を定めることで、自己の振り返りや見直しに役立てることができた。	A	・ゲストティーチャーや地域の方との関わりの中で、キャリア教育の実施をこれからも行っていく必要がある。	心豊か部
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間と歩いて登下校する時間が1週間で420分以上の児童生徒65％以上	B	・体を動かすことの楽しさを紹介し、児童の運動への興味関心を高める。	B	・肯定的な回答の割合が多く、数値目標をおおむね達成できた。 ・2学期以降、委員会活動と連携し、運動の楽しさを紹介し、児童の運動時間を増やしていく。	B	・車で送迎されている児童が依然としており、普段の生活から運動を意識して行動する取組を考える必要がある。	健やか部		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○「担任は、子どもにしっかりとかわっている。」と回答する児童・保護者90％以上	B	・会議の内容、進行の仕方等を改善して回数や時間の削減を図る。 ・各所の整理、整とんを進め、業務の効率化を図る。	B	・1学期の時間外勤務時間がどの月も45時間以内であった。	A	・「先生は子どもの良いところを認めてくれていると思う」児童82％、保護者92％、「担任は、あなたにしっかりと関わっていると思う児童89％、保護者94％であった。以前と比べて子どもにしっかりと関わることができた」職員98％であった。	A	・普段の授業の場面で、子どもたちの良いところを認め、しっかりと子どもたちと関わろうとする先生方の熱心な姿を、随所で垣間見ることができ、継続してほしい。	教頭
●特別支援教育の充実	○学習しやすい環境づくり	○学校のUDや合理的配慮について意識して取り組むことができた」と回答する教員80％以上 ○「学習に集中しやすい環境・学級である」と回答する児童・保護者85％以上	B	・特別支援教育の視点を取り入れた「学習環境のユニバーサルデザイン」「授業のユニバーサルデザイン」「人的環境のユニバーサルデザイン」を図る。 ・学校運営協議会やPTAと連携し、UDへの理解を深める。	A	・児童にUDの理解を促すために、年間を通して、放送でUDについて児童が考える時間を設定する。 ・PTA主催の講習会や職員向けのUD研修の受講を促し、そこでの資料を配布を行う。学期の始まる前に、職員に教室環境の徹底を促す。	A	・アンケート調査において90％以上の教員が、学校のUDについて意識して取り組むことができた」と回答している。 ・「学習に集中しやすい環境・学級である」と回答した児童90％以上・保護者90％以上である。 ・学校運営協議会やPTA主催のUD講演会に職員も参加し理解を深めようとしている。 ・児童一人ひとりに寄りそった授業づくりに取り組んでいる。	B	・UDへの意識や理解が児童だけでなく保護者にも浸透しているので継続してほしい。	特別支援教育コーディネーター 学び部
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
「○自ら進んで学ぶ児童」の推進	○教員の専門性と意識の向上	○自ら進んで学ぶ児童に関する専門性が向上した教員80％以上	B	・自ら進んで学ぶ児童に関する研修会の実施 ・授業研究会の実施	A	・職員アンケート調査をもとに、校内研修会を実施している。研修内容を活かし、それぞれの教員がグループで研究に取り組み、公開授業を計画的に、実施する予定である。	A	・アンケート調査において、95％以上の職員が学校の目指す子供像を理解し、85％以上の職員が自ら進んで学ぶ児童の育成を意識した実践を行っている。その結果85％以上の児童が進んで学習ができていると回答している。	A	・「トライ＆エラー＆チア」の目標はとてよかった。失敗してもいいからやってみる、子どもたちがやってみよう」と進んでやっている姿を見ることができた。	研究主任 学び部

5 総合評価・ 次年度への展望	・児童一人一人の良さを紹介し伝えあう活動、担任と児童一人一人が話し合う「あのねタイム」、教員が授業や休み時間に子どもに関わる時間を確保されたことで、児童の学習意欲や友人との関係が良好になっている。 ・4部会を中心に組織的に取り組み、おおむね達成目標には到達したが、体力づくりが、毎年低いので取組を考える必要がある。 ・「学習環境のユニバーサルデザイン化」「授業のユニバーサルデザイン化」については、本来の理論や目的が薄れて取組が形骸化してきている。 ・次年度は、教員一人一人の授業力等を向上させる取組をさらに充実させることで、児童の自主的な学習態度を高めていきたい。
----------------------------	--